

# 雫石町コミュニティ・スクール通信

雫石町教育委員会 令和4年度 2月1日発行

雫石中学校「まごころおてがみ」～ 社会福祉協議会「しろやぎさんホットレター」

## ～手紙でつながる世代間交流～

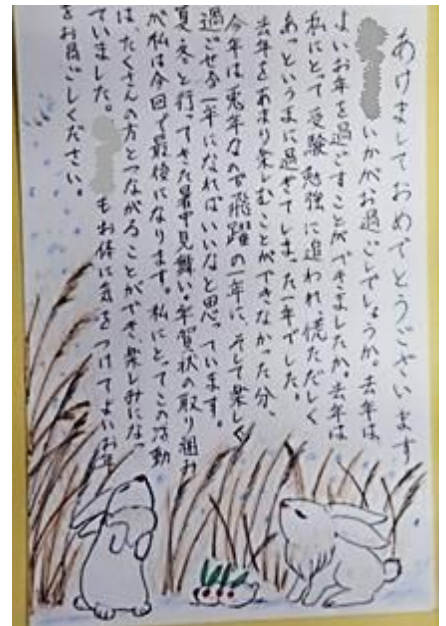
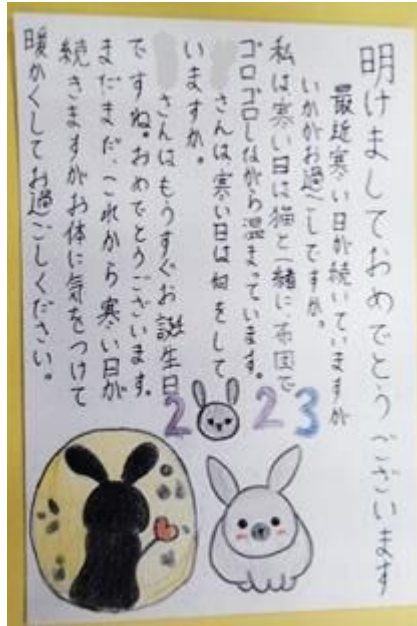
雫石中学校では、授業の一環で暑中見舞いと年賀状を送る「まごころお手紙」の取組を全校で行っています。

この取組は令和元年の、敬語や時候の挨拶、硬筆書写を実践する3年生の国語の学習が始まりでした。生徒たちはハガキを書く経験が少なかった為、丁寧に指導しなければ、文章を書くことが難しい状態でした。特にも3年生は高校受験の入試願書をペンで正確に作成する必要があったため、この取組が役立ちました。出来上がったハガキで世代間交流したいという及川美幸先生の思いを社会福祉協議会が受け止め、町内に住む75歳以上の一人暮らし世帯の方や民生委員に届ける仕組みができました。送る相手が定まったことで、生徒は相手を想像しながら身近な話題やイラスト、敬い思いや言葉を添えて年賀状をしたためることができました。

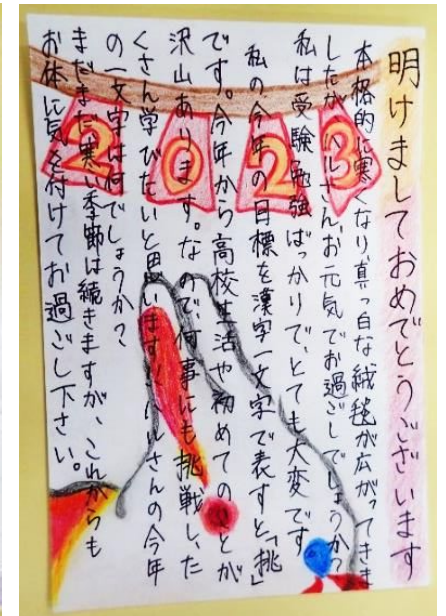
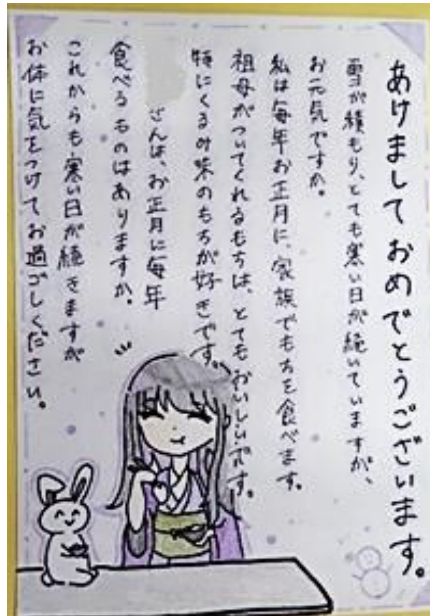
令和2年、社会福祉協議会と様々な団体が連携した「しずくいし『つながる』BIGプロジェクト」に雫石中学生徒会が協賛、手作りマスクを一人暮らしの高齢者に届ける取組に、1年生が絵手紙を添えました。受け取った方から、お礼の返信や感謝の電話、感激の声が多数寄せられました。直接気持ちを伝えようと中学校に来校された方もいて、生徒と感動の対面を果たしたこともありました。この手紙が一人で暮らすお年寄りに寄り添い、活力になっていることがわかるエピソードです。

令和3年には、暑中見舞いと年賀状を全校で

の取り組みに拡大しました。受け取った方からの喜びの反響が大きかったことから、令和4年からは、社会福祉協議会後援「しろやぎさんホットレター事業」として福祉事業になりました。この活動は、生徒の国語力を向上させ、優しい心を育みながら、地域のお年寄りに元気を与える活動になっています。社会福祉協議会の澤口主査は「今は核家族が多く、お年寄りが遠い存在になっている。この活動を通して地域に住むお年寄りを身近に感じてほしい。そして雫石の良いところ、足りないところ、町、人について考えるきっかけになればいい」と話します。



もらった方の笑顔を想像して書いています



SNS時代の今、手紙の文化を守っていききたいですね

# 今年もがんばるぞ～♡雪んこ見守り隊始動

1月7日（土）、雪んこ見守り隊の出陣式が雫石町社会福祉協議会で行われ、全8回の活動が始動しました。今年は雫石中学校から過去最高の104人の参加応募があり、中には受験と両立しながら参加する3年生の姿もありました。

この日は、雫石高校生や地域の有志ボランティアの方と8班に分かれて一人暮らしの高齢者宅を訪問し、安否確認の声掛けを中心に玄関先の除雪を行いました。2年生の佐々木葉久さん、山本結愛さん、杉澤明莉さんは「待っていているおじいちゃんや、おばあちゃんと会話するのが楽しい！」と屈託のない笑顔で、活動自体を楽しみながら参加していました。

社会福祉協議会の澤口主査は「1996年に始まった当時の子が親になっている。毎年この活動を心待ちにしている方たちが居るので、コロナ禍でも続けてきて良かった」と話します。「雪んこ見守り隊」は喜んでくれる人の顔が見える世代間交流です。



みんなできれば、あつという間だ！



来週も来るからね、元気でね！

～良い地域に良い子どもは育つ～

# にしやま住民意見交換会

1月22日（日）、西山公民館で「にしやま住民意見交換会」が開催され、住民や西山地区に関わる方たちが「西山地区でやった方がいいこと、したいこと」についてアイデアを出し合いました。西山地区では令和2年、中学生以上全員を対象にアンケートを取り、そこで出た地域の課題や西山のこれからを地域みんなで考えていく地域運営組織の設立が決まり、令和5年春に始動します。

この日は、西山小学校の阿部校長先生、佐藤賢治先生も参加し、西山小として地域と一緒に出来ることについて思いを巡らせました。阿部校長先生は「小学校と地域で防災について一緒に考えていきたい」と呼びかけ、参加した中学生からは「子どものスポーツクラブを活性化させたい！」「昔遊びなどで、お年寄り子どもたちが交流する場があるといい」などの意見が出され活発な交流会になりました。



中学生も参加し、自分の意見を発表しました



出た意見を壁に貼り、全員で共有しました